

遅ればせながら、明けましておめでとうございます!

第12号発行が送れたことをお詫びいたします。

お品書き

【その壱】CODEレターVOL.12

【その弐】プロジェクトNEWS

【その参】ぶどう新聞

【その四】新刊「災害救援 支えあいは国境を超えて」案内
以上

Letter

2004.1.20 VOL.12

CODE海外災害援助市民センター発行

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替 : 00930-0-330579

今年も宜しくお願い致します。

みなさま、いつもご支援、ご協力ありがとうございます。ここ被災地KOBÉは、1995年の阪神淡路大震災より2004年の1月17日で丸9年が経過しました。当センターは、2003年12月にNPO法人として認証がおりましたが、2004年1月17日で発足より丸2年を迎えました。

2003年は、2月に発生した中国新疆ウイグル地震、5月に発生したトルコビンギョル地震、同じく5月に発生したアルジェリア地震と3つの救援プロジェクトを立ち上げました。また、ぶどうプロジェクトを中心としたアフガニスタン救援も継続展開しています(各プロジェクトの詳細につきましては、当センターHPをご参照下さい)。

さらに12月26日に発生したイラン地震では、地震発生直後から関連機関からの情報収集を開始し、1月1日～1月8日までスタッフの現地派遣を行い、情報収集を行って参りました。今後の支援内容については、理事会で協議、決定していきます(詳細につきましては、同封のプロジェクトニュースをご参照下さい)。

平常時の事業としては、多くのセミナーを開催してきました。NGOや国際協力についての入門編セミナーでは、多くの大学生の参加をえて、NGOや国際協力に対する関心の高さを改めて実感しました。福祉・医療従事者を対象とした専門セミナーでは、近畿圏以外からもご参加頂き、毎回熱心な質疑応答がなされ、予定時間を超えてしまうほどの盛況振りです。

また近畿圏が主ですが、皆様のご協力を得てアフガ

ニスタン現地報告会なども開催することができました。少しずつですが、私たちの活動を直接皆様にご説明する機会があるということは、非常に大切なことだと感じています。

災害救援に限らず当センターの展開している事業全てが、読者の皆様はじめ多くの市民の方々からのご支援で成り立っております。今後も皆様のご協力をえながら、当センターが発展できればと考えております。

末筆ではございますが、今年も宜しくお願い申し上げます。



(以上文責：事務局 仲江川徹)

NGOことはじめセミナー報告

連続セミナー「NGOことはじめ～貧困から世界をみる～」を10月7日から12月6日までの2ヶ月をかけて5回開催しました。このセミナーでは「貧困」をメインテーマに、NGOの各分野で活躍されている方々を講師にお招きし、それぞれの活動、経験から貧困解消に向けてどのような取り組みを行っているのか、お聞きしました。

日本の食糧事情との比較から世界の飢餓の現状についてお話しされた日本国際飢餓対策機構の清家弘久さん。インドのカースト社会から人権について考えたアムネスティ・インターナショナル日本の山下明子さん。教育



第1回「貧困と飢餓」の様子

との関係についてワークショップを行ったシャンティ国際ボランティア会の三宅隆史さん。ネパールでの出産、母子支援活動についてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの堀江由美子さん。日本のODAと欧米の支援との違いについてお話しされたODA改革ネットワークの神田浩史さん。

いずれも講師のお話は、さまざまな現場で実践を元にした大変興味深い内容で、参加者からも多くの質問が出され、毎回、時間をオーバーするほどでした。



第5回「貧困とODA」の様子

今回の連続セミナーを終えて、「貧困は災害」である、ということを変更して感じました。急速なグローバル化の中で開発優先の社会システムでは、元々社会的に弱い立場にある人々を、更に深刻な状況に追いやってしまいます。強者の論理では貧困・災害を増加させてしまうのではないのでしょうか。貧困から見えてくるもの。それは限定された一部の人の問題ではなく、私たちの生き方に関わる身近な問題であると感じました。

(以上文責：事務局 福田典男)

事務局より読者の皆さまへ

先日、皆様のお手元に郵送いたしました「NPO法人化記念講演会 国際的な人道援助のあり方」の案内に訂正があります。第1回目が1月31日(土)開催となっておりますが、正しくは2月14日(土)となります。時間、会場等には変更はございません。大変ご迷惑をお掛けいたしました。詳しくは、下記をご参照下さい。

皆様、多数のご参加をお待ち申し上げます。

【記念講演会】「国際的な人道援助のあり方」

【第1回「国際的な人道活動とCODE」】

日時：2004年2月14日(土)13:30～16:30
講演者：芹田健太郎(CODE代表理事)

【第2回「災害医療とCODEの役割」】

日時：2004年2月21日(土)13:30～16:30
講演者：HuMA理事長 鵜飼卓さん

【第3回「予防防災とCODEの役割」】

日時：2004年3月28日(日)13:30～16:30
講演者：室崎益輝(CODE副代表理事)

各回とも受講料は2,000円(会員及び学生は1,500円)

会場は、各回ともにJICA兵庫国際センターです。

詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。

これまでの活動記録12/1～12/31

- 12/ 5 JICA研修参加(～7日)
アフガニスタンビデオ上映会(應徳院)
- 12/ 6 NGOことはじめセミナー第5回開催
JICA国際協力フェスティバル出展
- 12/ 9 アフガニスタン派遣(～19日)
- 12/20 第1回理事会開催
- 12/23 アフガニスタン報告会開催(カトリック堺教会)
- 12/26 イラン地震発生

ありがとうございます。12/1～12/31

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

三島宣彦,市原崇行(東京都),加納真由美(滋賀県),宇都幸子,山田千恵子(以上兵庫県),今中由美子,上田敦子,塚本千代子(以上大阪府)

新規会員

・賛助会員

団体:ゆめ風10億円基金(大阪府),阪神高齢者障害者支援ネットワーク(兵庫県)

個人:佐藤成男(群馬県),宇都幸子,杉田文夫,門永三枝子,高山朋子(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替: 00930-0-330579

事務局では、不要になったハガキや書き損じハガキを集めています。これらは、郵便局で手数料を払えば、官製ハガキに交換していただけます。業務の中で使用する郵便代金の削減の一環に使用させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

CODE プロジェクトニュース

CODE海外災害援助市民センター
 〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
 Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693
 e-mail: info@code-jp.org
 URL: http://www.code-jp.org/

イラン南東部地震支援開始

既に、報道によって大きく取り上げられていますように、昨年暮れ 12 月 26 日イラン南東部バム市にて M6.3 の大規模な地震が発生しました。CODE では地震発生第 1 報を受けて、情報収集を開始致しました。2004 年 1 月 1 日より 8 日まで現地へスタッフ派遣が可能となりました。第 1 次現地視察報告を致します。

【2004年1月5日被災地バム視察】

1 月 1 日に関西国際空港を出発し、予定では 3 日には被災地に入る予定だったもののテヘラン空港が雪によって閉鎖されてしまい、経由地であるドバイ空港で待機せざるを得ない状況となってしまいました。2 日遅れて、テヘランに到着し、神戸に住むイラン人学生から友人のテヘランに住む学生ペイマンさんを紹介して頂いていたために、テヘラン空港到着後すぐに、被災地に最も近いケルマン空港へと飛び立つことができました。ケルマンのホテルからバムまで約 2 時間。砂漠の中の一本道を走ると、バムがあります。バム市内に入る手前に、ホジャアスカ村というところで、赤新月社（日本での赤十字社にあたる）のテントなどを張った家族がいました。車を停めて訪ねさせてもらいました。全部で 4 張りほどのテントの中には毛布が敷き詰められていました。赤ん坊や子どもたちが何人かいたので、KOBE の復興のシンボル ” まけないぞう ” をプレゼントしました。

いよいよバム市内に近づくにつれて、地震の被害がひどくなっていく様子がよくわかります。完全につぶれ、がれきの山と化しているところが多く、押しつぶれた車なども見られます。ペイマンさんのご両親は元々バム出身だったため多くの親戚がバム市に住んでおられました。その親戚を訪ねました。叔父さん、叔母さんはペイマンさんの顔を見て、泣きつかれていました。聞くと、息子、娘と孫 2 人を失ったそうです。叔母さんは地震が起こったとき、お祈りの時間が近づいていたので起きていて、地震を感じた瞬間すぐに、外へ飛び出したそうです。目の前で家が崩れ、子どもや孫たちが中にいると思うと、頭を抱えて泣くしかなかったと話されました。彼の親類関係だけで 50 人以上は亡くなったといっています。



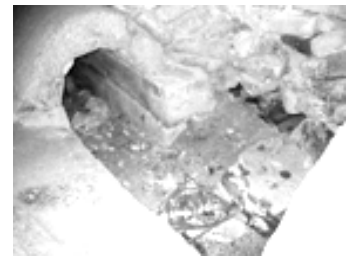
地震後 10 日目に入り、現地では物資などの面で混乱しているという状況は見られませんでした。ある人によれば、イラン政府には配給するための物資はどんどんと届いているが、配給するための調整がうまく行われていないと言われていました。街で出会った人は 1 日目だけは良かったがその後はまったく物資もこないという声もあり、新聞などでも、まだまだ物資の供給が足りていないなどの報道もあります。私たちの見た限りではテントや毛布、ストーブなど一応の物資はあったように見えたのですが、まだまだ寒くなるこれからに向けて人々は先の見えない不安な夜を過ごすことを思えば、物資は十分と言えないのかもしれません。

バラバット村訪問



私たちは今回のバムの地震によって国際 NGO らはおそらくバム市内への援助活動を中心とするだろうと考え、どこかに援助が届きにくい村があるのではないかと考えました。そこで周辺の村を回ることにしました。しかし、2 日も遅れての現地入りだったため、時間的制限もあり、いくつも回ることはできない状況でした。ペイマンさんが、村であればほぼ全滅状態のところがあるとバム市内から車で 15 分ほど走ったバラバット村という人口 16000 人の村に連れて行ってくれました。そこには、村を突き抜ける道路の中央分離帯（1km ほど続く）一面にテントが張られていました。早速村の自治体のメンバーと会うことができ、話を聞くことができました。村の被害状況は人口 16000 人のうち 3000 人死亡、70 % 以上の家が全壊し、30 %

が使用不可能の状態です。主要産業はペルシャ語では”ホルマ”というナツメヤシを各家庭それぞれ庭に持っています。それを収穫し売りにだしますが、栽培には欠かせない水を得るためのカナート（地下水脈通路：アフガニスタンではカレズと呼びます）が地震によって被害を受けているため、地震直後から水が流れなくなってしまいました。パラバット村のカナートを実際に行きましたが、水はまったく流れていません。しかし、2 つ見たうちの 1 つはどこかで水が流れている音が聞こえました。おそらく、水路が変化したのか、別の水路へと流れていってしまったのでしょうか。



学校もほとんどが破壊されてしまいました。いくつかの学校を見ましたが、半壊、全壊などひどい被害を受けています。校庭に被災者がテントを張っているのも見られました。

自治会のメンバーの一人であるアリレザさんのお宅を訪問させていただきました。彼の家は築 70 年なる古い家で、他のアドベの家とは少し違い各部屋の天井がドーム型になっています。コーナーの構造が頑丈なのか、壁にひびが所々入っているものの完全には壊れていませんでした。彼の家でもナツメヤシの木が 10 本以上はありました。地震後、彼は家の庭にテントを張って生活をしています。被災者が家の前の道路やこうして自分の庭などにテントを張っているのは、暮らしを支えているナツメヤシから離れられないのかもしれないかもしれません。この街は旧市街と新市街とに分けられるようでしたが、旧・新どちらとも関係なくつぶれてしまっているように見えます。



時間も遅くなってきたため、ケルマンに戻らなければならないので市内のペイマンさんの親族のところへもう一度尋ねることにしました。街のテントの中から明かりが漏れているが、一旦細道に入れば、まさに真っ暗でただただ瓦礫の山の不気味な影が続いています。道路上ではあちらこちらで、焚き火をしている光景が見られます。ペイマンさん親族も焚き火を囲んでいたところで、私たちが訪れるとお茶を飲んでいってくださいと迎え入れてくれました。イランはガソリンがとても安いために水さえ手に入れば、お湯を沸かすには問題はないようでした。焚き火には、地震で壊れた家の窓枠や廃材が燃料になっていました。焚き火で暖をとるといふより、つい先日まで共に暮らしてきた生活の匂いのするそれらが燃えていくのを見つめながら、各々が焚き火と語っているようにも思えました。叔父さんは何も語らず、角砂糖を手にもち、チャイをすすっていました。焚き火にゆれる叔父さん顔が 10 日前の地震のことを語っているようでした。

今後に向けて

テヘランへ戻った私たちは、イラン自然災害研究所という機関を訪問しました。そこで、今後の政府による復興計画ができあがる前に KOBE の経験を活かしてほしいと思い神戸より持参した提言書を受け渡しました。そして、今後長きに渡るであろう復興に私たちも、地域の総合的な復興への道のりに一緒に支援をしたいと話をしてきました。

今回は 1 日しか被災地に入れなかったこともあり、被災地すべてを見ることができなことは大変残念ですが、3 月にはまたスタッフが現地視察を行い、改めて今後の復興計画を考えていきたいと思えます。

募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の 15% を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。

口座番号: 00930 - 0 - 330579

加入者名: CODE

CODE の活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させていただきたいのですが、時間的な制限もあり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。メーリングリストへの参加をご希望の方は、ご遠慮なく事務局までお問い合わせ下さい。当センターのホームページ<<http://www.code-jp.org/>>にも同様のものをアップしております。

(以上 文責：事務局 斉藤容子)